工学実験 II（建築系）(Experiments of Architecture)

本科	選択・必修	開設時期	単位数	授業形態	担　当
土木建築	必修	5 年前	1	実験	古田健一 工藤洋三 中川明子

【授業の概要】
実践的技術者を養成する上で重要な、実務に役立つ技術や知識を体験的に習得することを目的とする。また、報告書の作成により技術者として重要な考察能力を養う。

【授業の進め方】
以下の項目について実験実習を行い、実験実習の成果をレポートにまとめて提出させる。
各回の実験は１２０分で行う。ただし、時間割で実施日の最終時間に割り振りができなかった場合は、別に授業を行い時間を確保する。

【授業計画】	【授業項目】	【内　容】
1 回	住宅空間分析実験 (1) 担当：中川	ゾーニングについての講義／設計製作室
2 回	住宅空間分析実験 (2)	調査実験：グループで建築家を 1 名選びその建築家の作品のゾーニング建築雑誌などで検証し、時代変遷、建築家の傾向を読み取る。／図書館
3 回	住宅空間分析実験 (3)	第 2 週目作業の継続／図書館
4 回	住宅空間分析実験 (4)	レポート作成／パソコン室
5 回	住宅空間分析実験 (5)	成果発表会／設計製作室
6 回	構造実験ブリッジコンテスト (1) 担当：工藤	つまようじブリッジコンテスト ルールの説明と企画立案
7 回	構造実験ブリッジコンテスト (2)	CAD による設計図面の作成
8 回	構造実験ブリッジコンテスト (3)	素材の加工および接合
9 回	構造実験ブリッジコンテスト (4)	部材の接合および仕上げ
10 回	構造実験ブリッジコンテスト (5)	つまようじブリッジ載荷試験（レポート作成）
11 回	建築実験Ｂ重回帰分析 (1) 担当：古田	多変量解析と重回帰分析の講義
12 回	建築実験Ｂ重回帰分析 (2)	データ収集
13 回	建築実験Ｂ重回帰分析 (3)	分析（1 回目）
14 回	建築実験Ｂ重回帰分析 (4)	分析（2 回目）
15 回	建築実験Ｂ重回帰分析 (5)	レポートの作成
【到達目標】	実験内容をよく理解した上で、目的、方法、結果、考察などの要求された項目を満たすレポートを書くことができる。	

【徳山高専学習・教育目標】	B1	【JABEE 基準 1(1)】	d-2b, g

【評価法】	「工学実験の評価の採点基準」は次に示す通りである。 1. 工学実験を行った（20 %） 2. 成果物（レポートなど）の提出期限が守られている（10 %） 3. 成果物は実験指導書で要求されている必要条件を満たしている（70 %） 各実験の必要条件は、実験時配布資料に記載し、最終成績は 3 種類の実験の評価の平均とする。
【テキスト】	各テーマごとに資料、テキストを配布する。
【関連科目】	工学実験 I(建築系)（4 年）、卒業研究（5 年）
【成績欄】	前期中間試験　前期末試験　前期成績　後期中間試験　後期末試験　学年末成績 【　　】【　　】【　　】【　　】【　　】【　　】